

第121回 幻住庵俳句コンクール

第121回 幻住庵俳句コンクール

175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	番号	句	住所・氏名										
光る君今宵ひと夜の月団子	光る君石灯消えて光る月	一汗も一輪の彼岸花にほっとする	参拝道脇に一輪マンジュシャゲ	吾も一度この名庭で月見たし	御所車秋の周遊会に思いはせ	きつね花に石の大黒笑うかに	大黒様石になりをりきつね花	月光や式部を徳ぶ石の寺	光る君へ石山寺の秋日和	秋の夜のルーベをあてて愛書かな	悲話残る野麦峠や虫の闇	高遠の流人の墓や虫時雨	流刑地に果てし女人や月高し	噴煙の淺間の山や天高し	芭蕉句碑巡りて膳所の秋惜しむ	秋風や女工哀史の野麦かな	少女越ゆ野麦峠や秋深し	土の声木の声そして虫の声	屋上の鳩と木馬と蜜豆と	茶の花や雲間の日射し一軒家	霜降や山畑高く風車舞ふ	夫の乗る脚立支へも松手入	松手入済みし句ひの夜気に満つ	休耕田疏賣ただよふ芒原			大津市見世一 岡崎 安	枚方市香里ヶ丘 中川 陽	枚方市香里ヶ丘 中川 滌	大津市石山寺三 小野	大津市別保二 田中 文	高槻市高垣市 四方 よ					
200	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	番号	句	住所・氏名										
行く秋の肩に杖おく芭蕉像	銀杏散りひらりひらりと大萱	秋深む川面に映る街灯り	心音の波の音めく夜半の秋	山小屋の灰きよらかに今朝の秋	梅花藻の水にゆらめきいと涼し	五月晴流れる雲と湖ながめ	彼の人も鬼籍に入りて星流る	面影の目もと口もと秋の宴	仲秋や鳥居くぐれば父の声	ふるさとを容れて二重の秋の虹	記念樹は大樹となりて法師蟬	まぼらなる秋空に我吸い込まれ	御神火の黒き煙や銀杏散る	秋立つや掃月正しき寺の庭	秋の雲淡く惨く流れていく	秋空に風の階ありにけり	ふるさとは父あるところ金木犀	虫の秋枯山水に椅子ひとつ	紫のタオル手にして苔清水	長月と残暑の厳し令和の秋	考える私が令和の式部です	秋石山詣貴方への願掛け叶うかな	時空超え月夜ながめて芭蕉	十五夜タイムトラベル吾子が友			大津市別保二 田中 文子	大津市田辺町 山田 和義	大津市別保二 田中 文子	大津市朝日が丘 澤木 洋子	大津市膳所 小林 和子	横浜市南区 谷元 博樹	岡崎市桜形町 鈴木 紀子	記名無し	記名無し	岩倉市神野町 中島 由美子	大津市本丸町 みちした とも